



年頭のご挨拶

令和4年の新春を迎え、心からお慶び申し上げます。

さて、今年は、下田メディカルセンターが、平成24年の開院からちょうど10年の節目を迎えます。少子高齢化が急速に進むこ賀茂地域において、適切な医療体制の構築を目指して、これまで努力してきた様々な取り組みが実を結び、地域住民の安心につながっている。そういう手ごたえを感じるようになってきました。

しかしながら、医療人材確保が困難であることは、今なお当地域の課題であり、今後も引き続き、賀茂地域で広域的に連携し、支え合うことが不可欠です。

また、いまだに世界中を覆っている新型コロナウイルス感染症についても、当地域の拠点病院としての責務を果たすべく施設の改修等、様々な取り組みをしてまいりました。

賀茂地域住民の皆さんが、住み慣れた郷土でいつまでも元気に暮らし続けることの大切さを胸に刻み、今後とも皆様方と協力して安定した医療活動が続けられるよう、祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。



一部事務組合下田メディカルセンター 管理者
下田市長

松木 正一郎

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は当院も新型コロナウイルス感染症対応に追われる日々が続いた時期がありました。第5波の際には下田市内でも複数のクラスターが発生し、発熱外来には多くの患者さんが来院され、毎日のように複数の陽性者が確認されておりました。帰接外来で多くの陽性者のメディカルチェックを行いつつ、感染症病床では中等症患者の入院も受け入れるといった状況で院内は騒然としておりましたが、職員が一丸となって院内感染を起こすことなく何とか乗り切ることができました。結果として、予定手術を一部延期することにはなりましたが、通常診療を大幅に制限することはなく、昨年は新規入院患者数2,100名、救急車受入台数1,150台、手術件数合計1,450件、消化管内視鏡検査1,700件、心臓カテーテル検査35件、外来化学療法130件、という実績を残すことができました。今後も賀茂地域のコロナ診療の役割の一端を当院が担っていくこととなりますが、昨年の経験をもとに現在も第6波に向けてソフト・ハードの両面から体制を整備しているところです。慢性的な医療スタッフ不足に悩まされている事は否めませんが、これからも賀茂地域の公的病院として近隣医療機関の先生方と緊密に連携しながら、入院・救急・手術・検査を軸に安定した医療提供体制を維持させる事で地域貢献に努めていきたいと考えています。

本年も下田メディカルセンターを宜しくお願い申し上げます。



下田メディカルセンター 病院長 伊藤 和幸

地域医療研修レポート

初めまして。海老名総合病院初期研修医の小泉皓子と申します。地域医療研修として、9月に下田メディカルセンターにて1ヶ月間お世話になりました。学生実習の時の地域医療実習で、限られた人材や機器の中でやりくりする様や、訪問診療や老人ホームなど患者さんの生活に接する機会が多く、幅広い視点が得られる貴重な経験だと感じ、またそのような体験をしたく下田での研修を希望しました。実際に研修医として1ヶ月間携わると、学生で感じたよりもさらに幅広く、高度なことがここ下田で行われていることを実感し、私が知る限りどこよりも総合診療していると感じたほどです。この病院に従事されている先生方や医療スタッフの方々の判断力の速さ、一人あたりがこなしている仕事の幅、経験値がとても高く、とても濃縮した1ヶ月を過ごすことができました。私は麻酔科志望で、来年4月からは手術室で麻酔をすることがメインとなり、患者さんとお話する機会はグンと減ります。ですが患者さんから話を聞けないからこそ、しっかり内科的なことを学んでいかなければと士気が上がりました。また、下田にはきれいな海やおいしいご飯、温泉もあります。ちょうど緊急事態宣言中であり、会食ができなかったり、一人で食事や温泉に行こうにも休業している店舗も多かったりで少し残念でした。それでも、1ヶ月間楽しく有意義に過ごすことができたのは、ご指導くださいました先生方やスタッフの方々のおかげです。コロナが落ち着いたら、下田の魅力を最大限堪能しにまた来たいと思います。



研修医 小泉 皓子

下田メディカルセンター 放射線技術科

放射線技術科は開設当時、診療放射線技師4名。開設月の1日の平均撮影患者数は54人でスタート致しました。翌年にはCT/MRIの他院検査共同利用を開始。また、平成28年9月からは心臓カテーテル検査と治療がスタート、現在も月に1件～5件程度の心臓カテーテル検査が稼働しています。

現在は診療放射線技師6名（内、X線CT認定技師1名／検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師2名／血管撮影インターベンション専門診療放射線技師1名を含む）。

1日の撮影患者数は100名を超える日も有るようになりました。今年は診療放射線技師の法律が改正され、業務拡大のための資格研修を科員全員で取り組んでいます。

これからも画像検査を通して自院内のみならず、地域の医療に貢献して行きたいと考えています。



臨床検査科 生理機能検査共同利用のご案内

下田メディカルセンターでは、地域医療機関の先生方にも幅広く検査機器をご利用いただきたくため検査共同利用の予約を受けさせて頂いております。

利用できる生理機能検査

●超音波検査

〔腹部（消化器・泌尿器など）・表在（甲状腺・唾液腺・乳腺・その他体表）・心臓・血管領域（頸動脈・下肢動脈・下肢静脈）〕

●負荷心電図（マスター法） ●ホルター心電図 ●ABI ●肺機能検査

●神経伝導速度 ●脳波



検査利用の流れ

① 地域医療連携室にて検査予約 ② 検査当日：検査終了後帰宅 ③ 通常3～4日で返送

返送されるもの

- 超音波検査：検査画像（CD-R）+画像診断報告書（書面）
検査画像はサーマルペーパーでの対応も可能ですので、ご相談ください。
- 負荷心電図：報告書（心電図経過記録+レポート） ●ホルター心電図：報告書（書面）
- ABI：報告書2枚（医療機関用、患者さま用） ●肺機能：報告書1枚
- 神経伝導速度：報告書（検査機器入れ替えのため、R4.2月からの運用となります）
- 脳波：記録波形用紙+報告書

至急の場合、当日結果をお渡しできる検査もございます。

患者さまへの手渡しを望まれる場合はご相談ください。

ご不明な点ありましたら、当院地域医療連携室にお気軽にご相談ください。

地域医療連携室

☎0558-25-3535

医療安全チーム活動のご紹介

医療者が安全な医療を提供することは基本ですが、医療者も人間です。ミスは絶対にないと断言はできません。だからこそ私たちは、常に安全な医療を提供するために、自分の性格や性質を知ることや、「この先に何が起こるのだろうか」と考える力（危険の予知）など個人の力を高める事や、院内の仕組みを変えるなど安全を保持する努力が必要です。私たちは、医療安全委員会とリスク部会というチームで安全な医療を提供するための活動をしています。活動内容は毎週水曜日、直近一週間に発生したインシデント報告書の内容を共有し、改善策を検討したり、月に一度、院内の環境が安全に保たれているかをチェックするために担当者が病棟や外来ブースを巡回しています。また、各部署の医療安全担当会で会議を開き、情報の共有や安全対策についての検討をしています。

そして、私たちが活動する中で最も大切に思っていることは「安全な医療を提供する」という意識を高めることです。そのために年2回、研修参加率100%を目指して全職員を対象に、医療安全に関する研修会を開催しています。これからも医療事故を防止するための活動をコツコツと積み重ねることで安全を保持していきたいと考えております。

下田メディカルセンター 医療安全管理者 宗村 礼子



賀茂地区在宅医療 介護連携推進支援 センターよりご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
また、旧年中は、賀茂地区在宅医療・介護連携推進支援センターの運営にご理解とご協力いただき感謝申し上げます。
本年も、各団体、関係市町、静岡県のご協力をいただきながらこれまで以上に在宅医療・介護連携をさらに進めて参りたいと思っておりますので、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

賀茂地区在宅医療介護連携推進支援センター 杉山 孝二

地域医療連携室よりご挨拶



澄み渡る大気が荘厳な鐘の響きに包まれる中、希望に満ちた新年を迎えました。ここに謹んで新春をお祝い申し上げます。また、旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。
昨年は当法人である静岡メディカルアライアンスが、前身である共立済病院の運営を委託され10年を迎えた年でした。そして本年5月には、下田メディカルセンターとして県立下田南高等学校跡地に移転後、開院10周年を迎えます。まだ机もパソコンも何もない新しい病院に足を踏み入れた時の胸の高鳴りが、ついこの間のように感じます。

今では開院当時に比べ外来患者数・入院患者数ともに1.5倍の増加となり、がん相談支援センター、難病医療協力病院、賀茂地区在宅医療介護連携推進支援センター等の運営も担うなど、微力ながらも下田・南伊豆地区ひいては賀茂地区の拠点病院の役割を担うまでになりました。当地区は過疎化・高齢化が著しく医療資源も不足した地域ですが、それ故地域連携の重要性は更に増し、当院の果たす責務を痛感します。

今後とも皆様のご支援をいただきながら、当地区の在宅医療介護連携が充実したものとなるよう精進して参ります。本年も宜しく申し上げます。

医療ソーシャルワーカー 木村 健吾

新年、明けましておめでとうございます。

昨年も大変お世話になりました。誠にありがとうございました。
本年も気持ちを新たにやり直してまいりますので、お気付きのことは何なりとご指導いただければ幸いです。
虎穴虎子という言葉にならって、難しいことでもチャレンジしてみようと思います。何事も長続きしない私ですが、まずはジムに通ってみようと思います。

医療ソーシャルワーカー 神取

あけましておめでとうございます。

昨年は多くのご紹介を賜り、誠にありがとうございました。
本年度も昨年より一層、顔の見える医療・医療連携の推進に努めていきたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。
今年は素敵なゴルフ女子を目指して「TRY!」したいと思います。
目指すはコースデビューです!!!

地域医療連携室 事務員 土屋

発行

下田メディカルセンター

〒415-0026 静岡県下田市6丁目4-10

TEL.0558-25-2525 FAX.0558-25-5050

<http://www.s-m-a.or.jp/shimoda/>

発行責任者 地域医療連携室長 吉野 清志



伊豆急下田駅から徒歩10分圏。路線バスのバス停も目の前にあり、電車やバスでスムーズに来院いただけます。また、敷地内に300台収容の駐車場を用意しております。



SHIZUOKA MEDICAL ALLIANCE

医療法人社団 静岡メディカルアライアンス 運営施設

みなとクリニック(外来)

〒415-0152 静岡県賀茂郡南伊豆町湊674

TEL.0558-62-0005

しらはまクリニック(外来)

〒415-0012 静岡県下田市白浜1528-2

TEL.0558-27-3700

なぎさ園(介護老人保健施設)

〒415-0152 静岡県賀茂郡南伊豆町湊674

TEL.0558-62-6800

海老名ケアサポートセンター

(今里クリニック・介護住宅事業所・サービス付高齢者向け住宅)

〒243-0423 神奈川県海老名市今里一丁目10番12号

TEL.046-232-0606